

塾の先生(独身)に
分からない問題を聞きに
行った時の出来事

ん
この問題は…

説明してもらったために
貸した僕のペンを
口元が寂しい時の癖なのか
唇に当ててしまう先生



先生の唇に触れて
ペンにべっとりすると口紅を
付けられてしまった

むっ

あ、
ごめんね♡

ふふっ…♡

口寂しさを紛らわすためだけに
僕の物を奪われたと感じて
悶々としていると…

塾の終業後
次は僕自身が…

は…む…♡

む…♡

ぬ…♡

♡

ふ…♡

ん…♡

お…♡

ぬ…♡

っ…!!

欲求不満な先生の
チューでべつとりと
口紅を付けられた

むっちりとした唇に
全身の感覚を支配され
理性も奪われ：

ぬぼぼ...

ギョッ!!

ギョ...

ぬ...

んんっ...♡
んふっ...♡

先生の身体の寂しさを
紛らわすためだけの
道具にさせられてしまった